

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300652		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム百楽苑 Bフロア ひまわり		
所在地	愛知県蒲郡市三谷町南寺戸12-1		
自己評価作成日	平成22年1月4日	評価結果市町村受理日	平成22年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1丁目11番16号		
訪問調査日	平成22年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山と海に囲まれ、自然環境に恵まれたホームである。「共に思いやる心」を理念とし、家庭的な雰囲気の中で自由にゆったりと過ごし、地域とのかかわりを大切にしながら生活が出来るように支援している。職員は目配り・気配りを心がけ、自分や自分の家族にして欲しいと思う介護を常に考えている。認知症があっても「出来る事」に目を向け残された可能性や、残された機能を存分に発揮できるようにお手伝いさせて頂きます。不安になった時は、いつでもそばに寄り添いお話を聞き、買い物・散歩など外出援助も個別に対応します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は愛犬“モモ”の存在を自然に受け入れながら日々を過ごし表情も穏やかである。リビングでおしゃべりを楽しんだり歌を口ずさむ利用者に職員がさりげなく寄り添い和やかな雰囲気にも包まれている。理念である「共に思いやる心」を基本とし個別ケアに取り組む職員に利用者家族は安心して信頼も厚い。運営推進会議は定期的に施設で開催し、身近な視点からのメンバーの率直な意見やアドバイスに期待が持たれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目の付く所に掲示している。常に意識しながら支援している。	「共に思いやる心」を理念とし職員はその理念を常に意識しながらケアプランを作成しサービスの質の向上を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の保育園や小学校の交流会を行っている。保育園の催し物に参加したり、地域のお祭りに積極的に参加している。買物やごみ捨て散歩の際は近隣の方と挨拶をし交流を深めている。	自治会に加入しており、祭りへの参加は利用者にとって楽しみのひとつである。また年に一度ホームに力士を招く際に近所の保育園にも声をかけて園児と一緒に楽しんでいる。常に地域との付き合いを大切に考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症について質問や意見がある時、話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	半年に一度開催し、参加された方から素直な意見等を頂きサービスの向上に活かしている。	昨年10月の会議では、地域包括支援センターから担当者が百楽苑に向き認知症サポーターの講義を行うことが可能であることが確認された。百楽苑では全職員がサポーターになろうという計画が進められている。	現在年2回開かれているが、今後は年6回となり会議をより活かすための取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当窓口へ出向いたり担当者の訪問時に事業所のケアサービスの取り組みを伝えている。	日頃から窓口担当者とは連携を図っており必要に応じて担当者も百楽苑を訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠しないように心がけている。言葉による拘束もないように、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	職員は、身体拘束については講習を受けており、周知している。夜間、施設内を徘徊する利用者もいるが中止させることはせず安全を確認しながらそっと見守るよう心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待については常に注意し利用者様の立場に立った支援が出来るように努めている。介護者にストレスが溜まらないよう、職員間で話し合いの場を持ち、介護者の息抜きが出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度等の講習会、研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様からの要望、アドバイスや不満をしっかりと聞き入れ、相手の身になり、職員間で話し合い、問題になりそうな事には早期解決に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付担当が明示されている。面会時、体調不良時には近況報告し、常に相談しやすい雰囲気作りをしている。	意見箱を3箇所設置している。面会時、ケアプラン確認の際には家族との会話を大切に、要望を聞き出し話しやすい対応を心掛けている。	開設から5年が過ぎ利用者やその家族との信頼関係も築かれていることからホームに対する満足度は大きいと思われるが、些細なことでも遠慮なく話せる雰囲気作りへの一層の努力を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、チーフ会議を開催し、必要に応じ全職員から意見を聞けるようにしている。	全体会議は年に6回、チーフ会議は定期的に2ヶ月に一度開かれ職員からは活発に意見が出される。提案のひとつであるが、利用者の気分転換のためのドライブや外出を日常的に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握したりするように努めている。年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修にもなるべく多く受講し、日常的にも学ぶ事を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や、会議での事例検討等を通して事業所外の職員の意見や経験をケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、両チーフが入居前に本人に会って、生活状態や心身の状態を把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前には面談を行い信頼関係を作り、家族が求めているものを理解し、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事や不安な事に対して、出来る事は直ぐに実行している。ご家族様の状況に応じたサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	苦しみ・不安・喜びを共感している。職員利用者間だけでなく利用者様同士の間でも助け合って物事を行うように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さな事でも報告を欠かさず、必要に応じて相談、協力を得ている。利用者様と一緒に支えると言う共通の思いで支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の希望に応じて馴染みの床屋に行き関係が途切れないように支援している。	入居前からの馴染みの床屋さん、化粧品店、友人に会いに行くなど、本人の希望に添った個別支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ、食事、外出時に気の合う利用者同士が楽しく過ごして頂けるようにサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた方やご家族様にも年賀状をお送りしている。相談があった場合は随時相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の性格を把握して言葉や表情から本人の思いを汲み取り、本人の視点に立って考えている。	訴えの少ない利用者も、表情から本人の思いを汲み取り、時にはひいて、押し付けにならないように工夫している。フローで盛り上がっている時も、居室で、手芸に打ち込んでいる方もおり、その時々を利用者に応じて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様自身からのお話や、ご家族様の面会時にさりげなく聞くようにしている。ケース記録にて、サービス利用の経過等把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの暮らしの流れに沿い、出来る事、出来そうな事に着目し一人ひとりの生活リズムを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の意見交換により介護計画を進めている。利用者様ご家族様に日頃の関わり方の中で思いや意見を聞き反映させるようにし自分らしく暮らせるようにカンファレンスを行いながら介護計画を作成している。	日ごろのかかわりの中で、利用者の希望、家族の思いを受けとめ、職員、関係者と話し合い、又、かかりつけ医の指示を仰いで、安心して暮らせるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子や変化などを細かくケースに記録し、職員間で情報を共有し合いより良い介護計画の作成に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時、法人内の看護師にも相談し連携している。状況に応じて通院、送迎や買い物等必要な支援は柔軟に対応し個々の満足を高めるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し地域の民生委員、介護相談員、包括支援センター職員と意見交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による月2回の往診をしている。体調不良時は受診し電話にての指示もして下さる。又休日の緊急時は蒲郡市民病院の救急外来に受診している。	月2回の協力医による往診があり、かかりつけ医への受診を希望する利用者には、家族と協力して支援している。療養型のかかりつけ医を受診し、月に一度、その施設のリクレーションをたのしみに行っている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が利用者様の健康チェック・状態の確認を行っている。経験のあるパート職員がいる為、日頃より体調管理に気を配っている。また法人内の看護師にも相談できるように関係作りが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医には都度、些細な事も相談し、指示を仰いでいる。蒲郡市民病院の相談窓口にも挨拶に行き関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、ご家族様の意向を踏まえ、協力医・職員・ご家族様と連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように意思を確認しながら、取り組んでいる。	重度化した場合などに、最期はどこでどう過ごしたいか、契約時に本人、家族と話し合い意思確認している。安心して最後を迎えられるよう協力医とも細かく連絡を取りながら、支援し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による応急手当の講習会を行っている。夜間緊急時の対応マニュアルがありマニュアルに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回非難訓練を行っている。消防署の協力を得て消火器の使い方など訓練し、伝達訓練も行っている。	夜間と日中を想定し利用者も一緒に、年に2回の避難訓練を行っている。地域、民生委員にも協力を呼びかけている。	今後も、運営推進会議等で、地域、民生委員の訓練への参加を呼びかけ、地域との協力体制を築いてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他利用者様、他ご家族様や外来者に対して職員が本人のプライバシーに関する事を話さないように徹底している。いかなる時も利用者様を傷つけないように、目立たずさりげない言葉掛けや対応に配慮している。	職員は利用者のプライバシーや誇りを損ねることがないように、さりげない誘導や、言葉遣いを心がけている。又、一人ひとりの記録等、個人情報取り扱いについても理解し、徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な利用者様での表情を読み取り些細な事でも本人が決められる様に努力している。押しつけずに複数の選択肢の中から自分で決められるような場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、職員の考え方を押し付ける事なく利用者様が希望を言えるような環境作り心掛けています。希望を引き出せるような働き掛け本人の選択、決定を重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人の希望を聞きながら決め、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。馴染みの洋服屋に買い物に行く支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付けも利用者様と共に行っている。利用者様と同じテーブルを囲み楽しく食事が出来るような雰囲気作りに努力している。	栄養管理された法人内の食事サービスを利用している。出来ることはお願いし、汁物の具を切ったり、盛り付け、片付けなど、一緒に行い、食事職員と同じテーブルで、和やかな雰囲気楽しんでる。おやつは職員と一緒に手作りし楽しみごとになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取や水分摂取は毎日チェック表に記録し職員が情報を共有している。むせたり飲み込みの悪くなった利用者様にはお粥や副食を刻み、食べやすいように工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい、歯磨き、義歯の洗浄等、自己にて行っている。その都度声掛け、介助が必要な方には出来ない所をフォローさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を利用して、時間を把握しあからさまなトイレ誘導ではなくさりげなく自尊心を傷つけないように支援させて頂いてます。	チェック表で、排泄パターンや時間を把握し、さりげなく誘ってトイレでの排泄を支援している。職員は自尊心を傷つけないように言葉や対応には配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記入し、便秘の方には牛乳やヨーグルト等を提供し、腸の動きを良くする為に、散歩、ラジオ体操、リハビリ体操への参加を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様に無理強いする事なく一人ひとりの意向を第一に個々に沿った支援をしている。羞恥心に配慮している。	いつでも入れるよう準備して、利用者に声をかけている。拒否の人にも誘い方を工夫し、タイミングをみて、無理強いすることなく支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。寝付けない時には、温かい飲み物を提供し眠りにつけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の説明書を保管し、全職員に分かるように徹底している。服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った楽しみ、役割を発揮してもらえるように働きかけをし、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみ事に合わせて、外出の支援に努めている。本人の希望を把握し、歩行困難の方も車椅子にて散歩をしたり気分転換を促している。	自然に囲まれたホームで、歩行が不自由な方も車椅子で、散歩や買物、外食など、気分転換している。利用者の希望を把握し、化粧品店、床屋、カラオケ等、外出の支援に努め、不穏時はベランダに出たり、散歩に出かけたり気分転換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理をし買物の際にはご自分で支払いをしている方もいる。管理が難しい方は買物時は好きな物を選んで頂き、立替にて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に連絡が取りたいと要望があった場合、手紙の用意や家族の電話を取り次ぎの了解が取れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはその月にあった手作りの飾りつけをしている。トイレへの矢印を貼り混乱を避けるように配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	海を望める明るいリビングでは、一人ひとりが思い思いにおしゃべりしたり、歌の好きな利用者に職員が合わせて歌ったり、と和やかに過ごしている。壁面を飾る手作りの大きなカレンダーも、季節感にあふれた温かい雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに畳の空間、ソファも置いてあるので好きな場所で過ごして頂いている。くつろげる環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にその方が普段から愛用されていた物や家具などを持ってきて頂いている。	使い慣れたコタツや洋服掛けが持ち込まれ、家族や孫たちとのスナップ写真、お手製で、ちりめん細工の可愛い小物が飾られた部屋もあり、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの分かる事、出きる事を見極め、必要な目印をつけたり物の配置に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300652		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム百楽苑 Aフロア ゆり		
所在地	愛知県蒲郡市三谷町南寺戸12-1		
自己評価作成日	平成22年1月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1丁目11番16号		
訪問調査日	平成22年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山と海に囲まれ、自然環境に恵まれたホームである。「共に思いやる心」を理念とし、家庭的な雰囲気の中で自由にゆったりと過ごし、地域とのかかわりを大切にしながら生活が出来るように支援している。職員は目配り・気配りを心がけ、自分や自分の家族にして欲しいと思う介護を常に考えている。認知症があっても「出来る事」に目を向け残された可能性や、残された機能を存分に発揮できるようにお手伝いさせて頂きます。不安になった時は、いつでもそばに寄り添いお話を聞き、買い物・散歩など外出援助も個別に対応します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はいつでも目のつく所に貼ってあり職員間で理念の共有をし日々の業務の中で実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の保育園の行事に参加したり小学校のボランティアの受け入れなど行い交流を図っている。地域のお祭りにも積極的に参加し、施設で行事がある時など参加してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症について質問や意見がある時、話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様が地域で安心して暮らして行けるように近所の方々に理解を頂いている。運営推進会議で委員の方からの意見、助言を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市の連絡協議会に参加している。市の担当者の方に連絡をとり助言を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠しないように心がけている。言葉による拘束もないように、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底	事業所内での虐待については常に注意し		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の立場に立った支援出来るように努めている。申し送り、ミーティング等で職員個々の意見を出し合い、話しをするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度等の講習会、研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様からの要望、アドバイスや不満をしっかりと聞き入れ、相手の身になり、職員間で話し合い、問題になりそうな事には早期解決に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付担当が明示されている。面会時には、常に問いかけ、何でも話してもらえよう雰囲気作りを心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り、ミーティング等で意見を出し合い話しをするように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスについて気を配り、職員同士の人間関係を把握するように努めている。年2回、人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修にもなるべく多く受講し、日常的にも学ぶ事を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や、会議にて事例検討、意見交換しケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望を聴く事を重視し、事前面談で生活状態を把握するように努めている。傾聴し不安を取り除くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前には何度も面談を行い、信頼関係を築き、家族が求めているものを理解し、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事や不安な事に対して、出来る事は直ぐに実行している。ご家族様の状況に応じたサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす者同士として、苦しみ・不安・喜びを共感している。職員利用者間だけでなく利用者様同士の間でも助け合って物事を行うように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様から本人、本人からご家族様への思いの橋渡しとなれるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の希望に応じて馴染みの床屋や八百屋に行き関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別で話しをしたり、皆でゲーム等をする時間を持つようにしている。又おやつ、食事時も一緒に食べ多くの会話を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた方やご家族様の方にも年賀状をお送りしている。相談があった場合は随時、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の性格を把握して言葉や表情から本人の思いを汲み取り、本人の視点に立って考えている。常に声かけ、傾聴し本人にとって何が最良かを常に考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの話しやご家族様の面会時にさり気なく聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの暮らしの流れに沿い、出来る事、出来そうな事に着目し一人ひとりの生活リズムを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の意見交換により介護計画を進めている。利用者様ご家族様に日頃の関わり方の中で思いや意見を聞き反映させるようにし自分らしく暮らせるようにカンファレンスを行いながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子や変化などを細かくケースに記録し、職員間で情報を共有し合いより良い介護計画の作成に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時、法人内の看護師にも相談し連携している。状況に応じて通院、送迎や買い物等必要な支援は柔軟に対応し個々の満足度を高めるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し地域の民生委員、介護相談員、包括支援センター職員と意見交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による月2回の往診をしている。体調不良時は受診し、又休日の緊急時は蒲郡市民病院の救急外来に受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が利用者様の健康チェック・状態の確認を行っている。経験のあるパート職員がいる為、日頃より体調管理に気を配っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医には都度、些細な事も相談し、指示を仰いでいる。蒲郡市民病院の相談窓口にも挨拶に行き関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、ご家族様の意向を踏まえ、協力医・職員・ご家族様と連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように意思を確認しながら、取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による応急手当の講習会を行っている。夜間緊急時の対応マニュアルがありマニュアルに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し非難訓練を行っている。消防署の協力を得て消火器の使い方など訓練している。年2回防災訓練、伝達訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する事を話さないように徹底している。いかなる時も利用者様を傷つけないように、目立たずさりげない言葉掛けや対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えの少ない利用者様の表情を読み取り些細な事でも本人が決める様に努力している。押しつけずに複数の選択肢の中から自分で決められるような場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、職員の考え方を押し付ける事なく利用者様が希望を言えるような環境作り心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付けも利用者様と共に行っている。利用者様と同じテーブルを囲み楽しく食事が出来るような雰囲気作りに努力している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取は毎日チェック表に記録し職員が情報を共有している。むせたり飲み込みの悪くなった利用者様は法人の管理栄養士に相談し、食べやすいように工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい、歯磨き、義歯の洗浄等、自己にて行える人はやって頂き、その都度声掛けしている。介助が必要な方には出来ない所をフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を利用し、時間や習慣を把握しトイレ誘導を行っている。紙パンツやオムツ等の使用を減らし極力自力排泄できるように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方への水分補給に気を配り、また飲み物の工夫を行い腹部マッサージ等を行っている。排便チェック表を毎日記入し把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の希望を聞き入って頂いている。午前午後と好きな時に入浴して頂いている。入浴は曜日を決めずに毎日入浴できるように声掛けしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて休んで頂けるように支援をしている。就寝出来ない時は飲み物を提供したり話を傾聴するなどしている。日中体を動かす時間を作り夜間良眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は確認と薬とし変更になった時は職員が分かるようにファイルに綴じてある。連絡ノートに記入しカルテに常時新しい説明書をはさむ事により、薬への理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりがそれぞれの力や昔からの知恵や経験を発揮できるような雰囲気を作り支援している。歌を唄ったり・トランプ・百人一首などをして楽しい時間を過ごして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じている。一人ひとりに声掛けし、ドライブ・買い物・散歩等に出かけている。地域のお祭りにも民生委員の協力を得て参加し楽しみ事を組み込んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方が自己管理をし買物の際にはご自分で支払いをしている。管理が難しい方は買物時は好きな物を選んで頂き、立替にて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に連絡が取りたいと要望があった場合、手紙の用意や家族の電話を取り次ぎの了解が取れている。ファックスにて家族と連絡を取られている利用者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの側面には、その月にあった手作りの飾り付けをしている。利用者様に花を生けて貰ったり季節感のある手作りの壁絵を作ったりしている。。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに畳の空間、ソファも置いてあるので好きな場所で過ごして頂いている。くつろげる環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの筆筒や小物、アルバムを持って来て頂き、居心地の良い部屋にして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の状態に合わせて対応をしている。入浴時は浴槽底に滑り止めマットやシャワーチェアも使用している。トイレの場所がわからない利用者様には貼り紙をしてわかりやすくしている。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 職員は利用者家族をはじめ近隣の住民すべてに対して開かれた施設でありたいと願っている。自治会に加入し祭りなどの地域の行事に参加するだけでなく、保育園に施設行事への参加を呼びかけたり小学校にベルマーク集めや廃品回収などの協力をして交流を図っている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 蒲郡市では運営推進会議は2ヶ月毎が困難であれば最低年に2度でもよいとされており百楽苑では4月と10月に開催している。昨年度後半の推進会議において認知症サポーター講習に関する情報が確認された。百楽苑では職員全員が認知症サポーターとなり地域住民により認知症への理解を深めてもらおうとする取り組みが進められている。	評価 ×
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 介護認定更新では定期的に窓口へ出向いたり担当者が施設を訪問するなどして日頃から連携は取れている。スプリンクラー設置に関して昨年12月より特に相談する機会が増えている。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 本人の意向や家族の状況に配慮しながら可能な限りより添い個別ケアに取り組んでおり通院や墓参りなど個人的な外出にも対応している。入浴は朝から夕方まで幅広い時間の中で本人の希望に合わせて対応、ゆっくりと安全に楽しめるよう支援している。また散歩やドライブ喫茶店、外食など希望に応じて対応し利用者の楽しみとなっている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	×
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		×

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

会議の回数においては規定にいたっていないが運営推進会議で得た情報やアドバイスを運営に活かしている。また利用者、家族の意見や要望に耳を傾け状況に合った個別ケアを目指している。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

